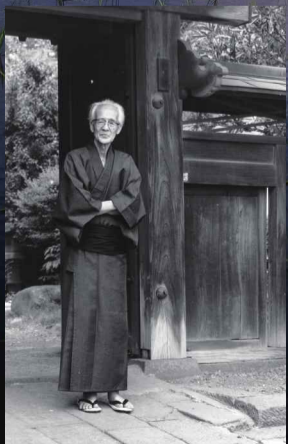


- 2 省エネ住宅の導入などを支援
- 3 がん患者の補整具購入を助成
- 4-5 特集 厚木の偉人「デビュー100年」
和田傳が記した厚木の地
- 6-8 街の話題/コラム/お知らせ

作家が見てきた 郷土と人

和田傳の著作「湿地」の装丁にも描かれている恩名から見た風景



恩名の自宅前に立つ
和田氏(1982年撮影)



昭和30年代・一面に水田が
広がる本厚木駅周辺

《4・5面に関連記事》
問あつぎ郷土博物館 ☎25-2515

デビューから100年の節目に、作家
が歩んだ道をたどってみました。

風唄う峠路に
蝸牛はひとり白雲と語る
尾根みちはのぼりくだり
ほそほと果てなくつづくが
つねに風のなかで
人もひとり行くしかない道である

厚木中学校前の文学碑に、作家の言葉
が残されています。

植えられたばかりの苗の間を風が吹き
抜け、水面に映る大山の稜線を揺らしま
す。かつて、市内の至る所で見られた、
初夏の厚木の風景です。大きな河川と平
野が広がる厚木は、肥沃な水田地帯でし
た。そこに生きる人々の姿を小説や随筆
として残した作家・和田傳。没後、名を
冠した文学賞が設けられ、今も多くの
人に知られています。

デビュー100年
郷土の作家 和田傳